2月4日(日)

大人気ミートファクトリー

もつ鍋セット

国産牛
白ホルモン(約280g)
1セット

1,280円(税込)

節分は、沢山の注文ありがとうございました。巻き寿司を「恵方を向いて無言で食べ切れば願いがかなう」と言われておりますが…毎年食べきれず…途中で喋ってしまう…。そんな年が続いております。

でも、豆まきはガチで投げます！家中豆だらけ。その後自分で掃除機をかける情けなさも感じます。自分で散らかし、自分で掃除(笑)。1年に1回のイベントを楽しんでいます。歳の数だけ食べる豆も、だんだんと数がわからず、ひたすら食べる(笑)。そんな節分です。

本日の広告です。

寒い日は、鍋ですよね。大好評、ミートファクトリーより『もつ鍋セット』。プリップリの国産牛白ホルモンと、もつ鍋のタレをセットにしました。

お好みで、キャベツ、ニラ、玉ねぎ、もやし、ニンニクなど入れて、今夜はもつ鍋はいかがですか？〆の麺類も必要ですね。もちろん我が家は、ちゃんぽん麺をいれます。

是非、食卓で鍋を皆で囲んで下さい。ご来店お待ちしております。

西田鮮魚店　副店長　越道　裕子

ジョイフル

西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489（旧庄原市内はご自宅に配達）

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『庄原にスタバ？②』

鮮コーポレーション㈱　代表取締役会長　西田　昌史

ここが人口２８０００人の山間の町？

岡山県高梁市備中高梁駅。

駅の裏側？の駐車場から階段を上り、改札前を過ぎ右に折れると、正面に『高梁市図書館』の文字。全面ガラスで中が見渡せる。

右側に『スターバックス』の、左側に『蔦屋書店』のロゴマークが浮かんでいる。

広島で見れば、なんということのない光景だが、ここは高梁だ。庄原より５，０００人ばかし人口が少ない市だ。ちょっとした感動があった。

しばし、入口に立ちその様子を眺める。

『スタバ』と『蔦屋書店』が向い合せにあり、その先に図書館がある。おしゃれで知的。そんな感じだ。絵になる。

金曜日の昼下がり。若い人たち、年配の女性のグループ、みんな静かにお茶を飲んでいる。パソコンを開いている大学生もいる。絵になる。

そんな中に一人、都会から来ましたよ的なオーラを放つ若い女性がいた。アバンギャルドという感じ。どうも、東京から来ている『スタバ』のスタッフらしい。絵になる。

メニューを見る。なじみのない飲み物が並ぶ。絵になる。

おしゃれな空間に、おしゃれな人がいれば、そこにいる自分も、おしゃれな気がする。

しかし、私は『スタバ』には一人では行かない。

何故？メニューがわからない。

『スタバのメニューランキング』なるものがあった。

1位　ダーク・モカ・チップ・フラペチーノ
2位　キャラメル・フラペチーノ
3位　抹茶クリーム・フラペチーノ
4位　エスプレッソ・アフォガート・フラペチーノ
5位　キャラメル・マキアート
6位　バニラ・クリーム・マキアート
7位　マンゴー・パッションティー・フラペチーノ
8位　ホワイト・モカ
9位　ストロベリーベリーマッチ・フラペチーノ
10位　スターバックス・ラテ

『フラペチーノ』って何だ？『マキアート』って何だ？『アフォガート』？聞いたこともない。

『冷コー』『ホット』『アメリカン』『ブレンド』の世代だ。

一人では行かないが悦子とは行く。で、悦子にそのメニューがどんなものかを聞く。そうやってこの前は「ダーク・モカ・チップ・フラペチーノ」を選んだ。直接には注文しない。悦子に注文する。

「ほう、これがダーク・モカ・チップ・フラペチーノか」。ゴージャスだ。飲む。「うまい。」次に来たらこれだ。ところが、覚えられない。

そしてこの日の高梁市。一人だ。勇気を出して『スタバ』のカウンターの前に立ったのはいいが…。

「何じゃった？」。メニュー表を見ても、どれがどれだかわからない。名前が思い出せない。焦る。思わず「コーヒー」と言ってしまった。

『スタバ』が日本に来て30年近くたつらしいが、おじさん泣かせだ。それにしても、悦子はなんで、こんなメニューを覚えられるんだろう。同じように暮らしているのに。うらやましい。

ここまで書いて、トイレに立った。隣の部屋で、新鮮市場で惣菜を担当してくれている城田さんが弁当を食べていた。『スタバ』の話をすると「ぼくも『スタバ』は苦手です」。53才の彼も私の言葉に、いちいちうなずいた。

そんな『スタバ』と『蔦屋書店』の先にある図書館には、カジュアルな本が並んでいる。広さは庄原の『田園文化センター』くらいだろうか。

それにしても本屋の奥に図書館、ちょっと不思議だ。

この本、買うの？借りるの？

ところが、これだけかと思うと、そうではない。

吹き抜けになった３階、４階が本格的な図書館だった。

３階に上がって、そこに広がる光景に驚いた。

３００坪のフロアの奥の奥まで延びる書棚。ぎっしり並ぶ本。一瞬、血圧が上がったような気がした。本好きの人はわかってくれると思う。興奮するのだ。

若いころ、広島そごうの『紀伊国屋書店』に初めて行った時も興奮した。あのころあんなにたくさんの本が並んだ本屋さんを見たことがなかった。その景色は私の想像をはるかに越えていた。時がたつのを忘れた。今はそれがあたりまえで、驚くこともなくなったが、それでもこの『高梁市図書館』の蔵書の多さには圧倒された。

そして４階はこども図書館。ちょっとした遊具と読み聞かせ室もある。

週末は、倉敷や近隣の町からの家族連れで、いっぱいになるらしい。わかる気がする。

親としては、図書館にいるこどもの姿を見るだけで安心するんじゃないだろうか。たとえ本は読まなくても（笑）。

でも、子供は絵本が好きだ。本を読んでもらうのはもっと好きだ。

わたしも、保育所に通っていたとき、

♫で～てこい　でてこい　でてこい　おはなしでてこい
どんどこどんどこ　でてこいこい

と始まる『お話でてこい』は大好きだった。ワクワクドキドキしたもんだ。67年経った今でもあたたかい気持ちが蘇る。

余談だが、『お話出てこい』は、昭和29年に始まったらしい。今でも続いているそうだ。

お話おじさんは、佐野浅夫さん。のちの水戸黄門だ。

そうは言っても、図書館だけでは敷居が高い。ここに、『スタバ』があるからこそ、図書館に入りやすくなる。雰囲気は大事だ。逆に『スタバ』だけでも、行く動機が限られる。

たぶん、図書館と『スタバ』と『蔦屋書店』がいっしょにあることで、そこに行くことがレジャーになるんだと思う。

高梁の場合は、そこに駅が加わった。

じゃぁ庄原は？

『庄原市図書館』『スタバ』『蔦屋書店』。そして……。

２８０００人の高梁市にこんな素敵な空間がある。

３３０００人の庄原市にも…。

備中高梁駅の高梁市図書館

２０２４年２月４日